

# 旧須山口周辺の樹皮保護ネット設置事業中間報告

特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会

## はじめに

富士山の森林ではニホンジカによる樹皮の被食によりウラジロモミ、キハダなどが次々に立ち枯れている。御殿場市が管理する旧須山口登山道沿いには、幹周り4mを超える県内最大のウラジロモミをはじめ多数のウラジロモミ大径木があるが、そのまま放置すると被食被害が拡大して立ち枯れし、枯れ枝の落下、倒壊等により歩道利用者に危険が及ぶことも危惧される。裾野市地先の歩道では、伐採時に枯れ枝が落下する危険があるため伐採されずに立ち枯れた木が放置されている。

ホシガラスの会は2013年、被食樹の保護と立ち枯れによる危険防止のため樹皮への保護ネット設置を静岡森林管理署に提案し、同署はこの提案を受けて、2014年度に資材を調達し当該年度の事業として保護ネットを設置するに至った。この事業はホシガラスの会、静岡森林管理署、常葉大学環境防災研究所の協働で実施し、ホシガラスの会会員、常葉大学学生がボランティアとして参加、登山道管理者の御殿場市の了解を得て実施した。



## 2014年8月25日 予備調査

昨年度、天然林に設置した植生保護柵の効果モニタリングするための毎木調査、植生調査の準備とともに、樹皮防護ネットを設置する候補樹の選定を、静岡森林管理署、常葉大学環境防災研究所と協働で実施した。また、樹皮防護ネットのサンプルを使い設置テストを行った。



## 樹皮防護ネット設置作業

10月30日、静岡森林管理署、常葉大学環境防災研究所と協働で、ホシガラスの会会員、学生ボランティアを含む総勢25名で、樹皮防護ネットメーカーの指導のもと、標高1,400m～1,550mの旧須山口登山道沿いとアザミ塚のウラジロモミ、キハダ、ナツツバキなど約20本に樹皮保護ネットを設置した。



倒壊すると登山道に影を及ぼす範囲に設置



静岡森林管理署、常葉大学のみなさんと

## 協力団体との協働作業

11月7日、富士山クラブとの協働で標高1,580mまでの14本に追加のネット設置とネットを地面に固定するペグ打ち作業などを実施した。

11月17日、キハダなど36本に残りのネットを全て設置し今年度のネット掛け作業を終了した。



NPO法人富士山クラブのみなさん



登山道沿いの枯れ枝を除去



標高1600m付近のウラジロモミに設置

## 作業を終えて

今回、樹皮防護ネットを設置した樹木の中には県内一のウラジロモミの巨木とともに、すでに被食が始まっていた貴重なオオバキハダの巨木もあった。被害が拡大する前に保護できたのは幸いであった。

## 次年度の計画と仮題

樹皮被食率が高い樹種はウラジロモミ、キハダ、ミズキ、ナツツバキだが、ヒコサンヒメシャラ、アオダモにも被害が及び始めている。森の母樹となる樹木をニホンジカの被食被害から保護することが必要である。資材と予算の確保などの仮題もあるが、次年度以降も関係団体と協力しながら設置範囲を広げたい。



被食率が高い須山御胎内周辺のナツツバキ



被食被害が始まったヒコサンヒメシャラ



被食が確認されたリョウブ



サラサドウダンなども

レポート NPO法人ホシガラスの会事務局 勝又幸宣  
2014年12月10日